

# 据置型レーザースキャナーの 使い方と注意点

ターゲットの例



① FARO®FOCUSS 150 Laser Scanner



② UAV



③ ① + ②



- 測定点の間隔は林内の見通し具合に応じて調整する
- 調査域内に人工ターゲットを3つ以上設置してスキャンすると、後の点群生成が確実になる
- スキャンの「解像度」と「品質」は、いずれも高い方が望ましいが、計測時間（作業効率）に大きく影響する
- 取得できる点群数が減らないように、「品質」を下げても、「解像度」は高く維持した方が森林構造を精度良く計測できる場合が多い
- 本TLS機器から生成した点群により森林を可視化できる(①)。しかし、梢端付近にレーザーが届きにくいため樹冠上部ではデータ精度が低下する。TLSデータに無人航空機（UAV）の空撮画像(②)から生成した点群データを結合すると(③)さらに森林の再現性が高まる

注：他のTLS機器から生成された点群とUAV点群の結合については今後検討する